

令和2年度第2回石巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 会議録

■日 時 令和2年7月8日（水） 18時～20時45分

■出席者 別紙のとおり

■会議内容

1 会議開催について

委員数20名に対して19名が出席しており会議は成立。

2 開会のあいさつ

(会長)

お足元が悪い中多くの方に出席をいただき感謝申し上げます。今日と来週で約60の事業の評価をしていただく。忌憚のないご意見をいただきながら進めていきたい。今回の評価検証の会議において3密を避けるためにテーマごとに市職員の入れ替えを行うので、担当の方がいるうちに質問等していただきたい。本日もよろしく申し上げます。

3 議事

(1) 協議事項

ア 重要業績評価指標（KPI）の達成状況について（基本目標1・2）

(資料2：各課より説明)

基本目標1【No.3～9について】

(委員)

No.6とNo.8に関連するが、元気いちばの来場者数はレジ通過者の実数なのか、それとも指数化して係数をかけたものなのか。

(商工課)

元気いちばについて、当初はレジでのカウントであったが、現在は入り口を人が通ると反応するカウンターを設置している。同様のカウンターをかわまち交流センターにも設置しており、両施設のカウントは機械が計測している。なお、元気いちばの来場者数については、2、3人が並んで入った場合に1とカウントしてしまうため、実測値と機械のカウントの間に1.6程度の誤差が生じていることを鑑み、機械でカウントした数字に係数を乗じた数字を来場者数として計上している。

(委員)

元気いちば周辺がイベント等により賑わうことによって道路の渋滞が生じる時間帯がある。その辺りには迂回路等もないという問題が生じている。

(商工課)

現在、新内海橋、新西内海橋の建設、国土交通省の築堤工事、かわまち交流広場の整備といった各種整備事業が関連し合いながら進められている。そのため、迂回路の設置等が

行われるなど平時の交通の流れとは異なる状況であるため、復興事業の終了に伴いある程度解消されるものと考えている。

(委員)

№. 9について、歩行者等の通行量調査について、調査時期はどのように設定しているのか。

(商工課)

毎年10月の平日と休日の2日間の調査としている。できる限りイベントと重ならないように配慮して日にちを設定しているが、平成30年度はポケモンGOのゲリラ的なイベントと重なってしまったため、通年より多い通行者数になった。

(委員)

№. 7を見て居住人口が増えたと思うが、居住人口と№. 9の通行者数の関係についてどのように感じているか。居住人口が増え通行者も増えたと感じているのか、それとも居住人口が増えたけれどもやはり車移動の人が多く通行者数にあまり変わりはないと感じているのか。

(商工課)

居住人口については減少傾向にある。令和元年度は微増したが、出生数よりも亡くなる方の人数が多く自然減が続いている。また、これまで立町等の中心市街地に住民票を残していた方が最近になって蛇田等の住宅再建先に住民票を移したといった事情による人口移動も起きている。しかし、賑わいという面で考えると元気いちばやかわまち交流センターができ、堤防一体空間が整備され、そこでイベントが多く開催されるようになったことにより人の流れは集まってきている。中心市街地の活性化という点では、萬画館や元気いちばに行くのみで人の流れが止まってしまっているのをどのようにして駅前まで周遊してもらえるようにするかが課題である。

(委員)

№. 9について、ここで増やそうとしている通行者数は地元の人をターゲットとしているのか、それとも観光客なのか。

(商工課)

中心市街地の定住人口として、転入や転居により社会増となるよう取組を進めていきたい。また、人の流れという点では地元の人が買い物するというのももちろんであるが、観光客の方によるものも大きいことから、交流人口ということで観光客の方も含めた賑わいの創出を考えている。

(委員)

地元の人による通行者数を増やそうとするならば、漫画のモニュメントを新たに設置したからといって通行者が増えることはないと思う。また、既に訪問したことのある観光客についても、モニュメントが2基増えたからといってそれだけで再来するとは思えない。どうやって通行者数を増やすかと考えるにあたって、ターゲットを明確にした方が取

組やその工夫がわかりやすくなり良いのではと感じた。

(委員)

No. 6とNo. 8について、萬画館もかわまち交流センターも新型コロナウイルスの影響により、今年度は既に数か月休業しており目標値の達成は難しいと思うが、それに対する対応策は何か検討されているのか。また昨年、第3期中心市街地活性化基本計画について、当会議へ意見を諮ったがその結果はどのように反映されているのか。

(商工課)

新型コロナウイルスの影響により、目標値に届かないのではないかとと思われるが、国によるガイドラインや新たな生活様式を踏まえた新たな取組を各施設で行う必要があると思う。新たな取組を進めるにあたっては、中心市街地活性化基本計画の中に位置づけているソフト事業等も活用しながら、事業者の意見を聞いたり相談したりしながら進めていきたい。

第3期中心市街地活性化基本計画への反映については、第2期からの内容変更を検討する際に参考にさせていただいており、大きく3つの変更点がある。1点目としては、復興事業がおおむね完了したことからハード事業ではなく、ソフト事業を充実させた。2点目としては、おおまかなハード整備が完了した中で住居に限りがあること、市全体の人口減が進み大幅な人口増が見込まれないことから、これまで以上に交流人口に着目し活性化を目指す内容としている。3点目としては、震災以降に生まれた市民活動団体による活動を新たな地域資源として捉え、文化活動や市民活動の拠点として機能強化を図っていくことにしている。なお、中心というと蛇田地区に目を向ける方もいることから、市民の視線をこちらに向けられるようソフト事業の充実を図っていくこととした。

基本目標1【No.10～17について】

(委員)

今回の評価検証の内容に直接関係するものではないが、防災集団移転の区画の中で土地を借りているにも関わらず、現在もまだ家も建たず空いた状態になっているところがある。仮に引っ越して来たい方がいても借りられている土地であれば、当然移ってこることができない。このような状況について、市としてどのように考えているのか。今後どのような対応をしていくのか。

(事務局)

防災集団移転用地については、購入される方と借りる方がおり、いつまでに家を建てるという約束をして貸与等をしているが、様々な状況の変化によりその約束が守れない方もいる。事情を聴きながらある程度期限を区切った上で、今後土地の活用をしていただくように促す働きかけをしており、十分にやり取りをしながら進めている。最終的にその土地を手放すと考えている場合は、それ以外の方が活用できるよう市としても検討していきたい。様々な条件があると思うので十分に関係機関と調整しながら対応してまいりた

い。

(委員)

雄勝町の中心部へ千葉県から移住される可能性のある方がおり、その場所というのが個人の都合で取りやめとなった土地であるという噂である。もしこのようなことが今後もしも起こりうるのであれば、早めに対策を打って色んな人を招き入れられるようにするのも手なのかなと思った。リモートワークが広まり、別荘地ともなる地方へ自宅を求める人も増えているという社会情勢になっているので、ぜひこのタイミングを逃さないようにしてほしい。

(事務局)

まずは被災者の意向を確認した上で、その土地を求めないと決断された場合については、新市街地も半島沿岸部も一般分譲を含めて順次対応している。今後空き区画については、住まわれる方を広く募集する取組を進めてまいりたい。

(委員)

No. 11について、バスの運行経路等の工夫をされ利便性が上がり良いと思う。障がい者や高齢者等の交通弱者のニーズへの対応はどのようにされているのか。

(地域振興課)

交通弱者に配慮した対応について、路線バスはミヤコーさんをお願いして対応していただいている。住民バスは、タクシー、ジャンボタクシー、マイクロバス等を活用し経費を削減しながら運行を図っているため、バスを一気にバリアフリー化する等の対応を取ることは難しい。しかし、運行ダイヤや料金を安くするという事は検討しており、実際に障がい者割引を導入し半額や無料にする等の対応を行っている。今年度に総合交通戦略の後期計画を策定することとしており、今回指摘いただいた点を考慮した内容としていきたい。

(委員)

利用者にアンケート等を取るとより具体的になるのではないかな。

(地域振興課)

利用者アンケートをする予定である。また、バス事業者にもヒアリングを行うことも予定している。

(委員)

No. 11について、担当課評価をBにしているのはまだ何らかの取組の余地があるからこそ、このような評価にしているのだと思う。ぜひ総合支所の生の声も取り入れながら、全庁的なより工夫を凝らした弱者救済策を期待する。

(地域振興課)

担当課評価については、このバス施策に関して満足するという事はなく常に検討していかなければならない内容であるという考えからB評価にしている。各総合支所の地域振興課にも当該事業の担当者がおり、計画策定にも各総合支所も入り一緒に策定して

いくこととしている。引き続き交通弱者への対策を検討していきたい。

(委員)

No. 17について、空き家問題は今後間違いなく石巻市の課題になる事項であると感じている。現在、空き家に関するKPIは移住促進や担い手育成として活用するという視点での設定になっているが、今後の空き家対策事業についてこのような視点によるKPIで良いのか見直しをしていただきたい。市内に2,000軒以上の空き家があるということで、今後の課題になると思うが、8,000万円かけて移住促進等に空き家の活用を図るより、移住促進や担い手育成には空きが出てきている復興公営住宅等の状況を加味しながら取組を検討していただきたい。

(住宅課)

空き家の実態調査の結果、市内の空き家は2,192軒あった。今年度に空き家対策計画を策定予定である。専門家等の意見を聞きながら空き家の解消について方策を立てていく。

(委員)

空き家というのは、所有者や税金、相続等様々な問題を抱えていることから、移住促進や担い手育成と一体的に考えるのが適切かについても再考していただきたい。空き家があるまま残されてしまうことにより環境面や安全面で問題になってくると思うので、相続等の手続きをスムーズにとれる窓口を設置する等の対応策について検討していただきたい。

(委員)

No. 11について、離半島部には交通弱者とされる高齢者が多く、牡鹿地区の社会福祉協議会の地域福祉推進委員会でもいかに交通弱者を救うかという話があがった。交通事業者との関係や交通事故等の様々な問題もあることから、明確な解決方法は出せていない状況にある。今後大事なところだと思うので検討をお願いしたい。

(地域振興課)

牡鹿地区にはバス事業者がないということで、市の直営によるバス事業を実施しており、他の地区とは違う形で運行している。交通弱者に対する対策として何か明確な答えを今すぐには出せないが、今後検討させていただきたい。

(委員)

評価検証の項目に直接関係ないが、総合戦略に災害に強いまちづくり、災害に強いインフラ整備と見出しが立っているが、どの程度の総雨量に耐えられるインフラ整備を目標にしているのか教えていただきたい。

(事務局)

市では現在下水道処理施設を整備しているが、計画では時間当たり雨量が45.6ミリの内水排除としている。

(会長)

どこの自治体においても、今般発生している時間当たり80ミリや100ミリの雨には対応できない状況ということである。

(委員)

温暖化等により、雨量も増えているので、これからの災害にも対応できるような基準を上げた防災対策をお願いしたい。

(事務局)

新しいポンプ場の整備については排水時間が短くて済むような計画で進めている。今年度洪水のハザードマップを危機対策課から各家庭に向け配布した。今まででは想定できないような災害が今後起こる可能性があるので自分の身は自分で守る意識と行動をお願いしたい。

(会長)

この分野の対策は非常に難しく、各分野で対応をしていくということが重要である。

(委員)

No. 17の空き家の活用について、千葉県が子育て支援に力を入れるということで、空き家を小規模保育に利用し、その結果子育て支援が充実し移住者が増えたという事例があるようである。空き家＝移住者だけではなく、空き家とその他の異なった視点の掛け合わせの施策も有効なのではないかと思った。

(地域振興課)

移住施策を推進しているものの、なかなか思うように進んでいないところでもあるので、いただいた意見も参考にしながら今後の施策に活かしていきたい。

基本目標2【No.18～26について】

(委員)

No. 22について、KPIを累計で表している理由は何かあるのか。

(産業推進課)

創業支援事業計画を作っており、国の認定をいただいているものである。その計画に目標件数を定めており、それに基づいてこのKPIの数値について累計で設定している。

(委員)

No. 24について、石巻には魅力的なものがたくさんあるが、石巻といえばこれというものが無いように感じる。石巻といえばというものを創出するために6次産業化というのが非常に有効であると思うが、産業復興支援員の選定はどのように行っているのか。

(商工課)

6次産業化に係る事業は委託して業務を行っており、産業復興支援員は石巻産業創造㈱に委託している。6次産業化センターについては㈱東北農都共生総合研究所に委託しており、両者が連携強化して事業を進めているところである。しかし、なかなか実績が伸

びていないというところで、来年度に向けてどういった業務が必要か等の見直しについて着手している。

(委員)

石巻に来て3年が経つが、産業復興支援員の顔ぶれが変わっていないことが気になっていた。評価シートを見ると、様々なことに取り組んでいるようだが、まだまだ数字も伸ばせるように思うので、各支援員の支援の動きについて市からもっと働きかけをしてもらえると良いと思う。

(商工課)

指摘いただいた点について、市としても問題であると認識していた。復興10年目となり転換期であることから、そういったことも踏まえて検討していきたい。

(会長)

委託先の方が単に仕事でやっているのか、魂を込めてやっているのかで大きく異なると思う。ぜひ熱い魂の分を引き出していただけると良い。

(委員)

No. 18について、アンケートの結果が出ているが、職種別に見ると「決め手になった」と回答している人の割合はどうなっているのか。保育士と看護師は特に人手不足が著しく今後も状況が悪化していくと予想される職業であることから、この制度がどの程度有効なものかを分析し、しっかりと見直す必要があると思う。

(包括ケア推進室)

無記名かつ職種を回答させないアンケート形式となっており、職種による集計はできない。

(委員)

そのような形式になっているのであれば、アンケートの取り方について検討していただきたい。ぜひこの制度のあり方について見直し、若者が石巻に戻りたい、石巻で就職したいと思わせるような取組となるよう改革を進めてほしい。

(委員)

No. 20について、目標値と実績がかけ離れているので、目標値の再検討も考えていいのではないかと。また、案内いただくサービスが毎年同じものの繰り返しとなっており運営の視点が変わっていないと思われるので、新しい視点や新しい意見が取り入れられるような運営となり、新しい取組をしていただけることを期待する。

(商工課)

目標値についてはセンターの理事会でセンター自体の目標として決定しているものであるため、市独自で変えることはできない。3月に開催された理事会において、市から新しい視点の新しい事業をするべきではないかという意見を述べさせていただいた。また、今回の新型コロナウイルスの発生により、事業のあり方も検討すべきではないかと思っている。

(委員)

№. 25について、正組合員、準組合員それぞれ1名が出たということであるが、漁業権を得たということか。漁業権を得て独立したのであれば、設備や船の購入に係る資金はどのようにしたのか。

(水産課)

1名が正組合員となったところであるが、まだ先輩漁業者の協力を得ながら漁業に取り組んでいる状態であり、一人前の漁師にはなっていない。今後、船等の購入については、独立支援を活用していくものと思われる。

(会長)

正組合員が出た、準組合員が出たということがわかると他の人の励みにもなるのかもしれない。

(委員)

№. 25について、市に新規就農で来られた方がいれば、JA青年部の方も活用していただきたい。年代も10代から50代までおり、作っている作物も様々であるのでアドバイス等できると思う。

(農林課)

今後、新規就農の問い合わせ等が合った場合に、ぜひ紹介させていただきたい。

(委員)

№. 21について、創業者の年齢についてわかっている範囲で教えてほしい。

(産業推進課)

正確な数字での把握はしていないが、20～50代まで幅広く万遍なくいるという印象である。

(委員)

№. 25の担い手育成について、担い手センターを特定の事業者のみで運営するのではなく、農業者、漁業者全体が担い手になれるような取組としてこの事業が波及していれば良いのではないか。

今実施している担い手育成は移住者に特化しているという印象である。移住コンシェルジュが石巻に居るのだから、わざわざ農業や漁業を分けて窓口を設置する必要はないと思っている。移住コンシェルジュが地元の農業者等ときちんと繋がっていれば、移住して農業をしたいという人が来ても移住コンシェルジュが今の担い手センターの機能を十分果たせると思う。

地元では農業をリタイヤしていく人も多く耕作放棄地も増えている状況にあり、もう少し地元にいる人たちにも目を向けていただき、地域の人が気軽に参加できるような取組にしてほしい。

(農林課)

現在の担い手センターは、他地域から来た農業をやってみたいという人と地元の様々

な分野の農業者を繋ぐ役割を担っている。

(水産課)

漁業については、農業と違う点として漁業権が絡むことがある。漁業協同組合に認めてもらえなければ漁業権の取得は難しいため、まずは地域に溶け込んでもらい、漁業者に認めてもらうことが重要である。今後の担い手センターのあり方については、移住者については、地域の人に認められることが第一であるため地域の人が運営する担い手センターに入ってもらい地域に溶け込めるように配慮した取組を進めていく。それに加えて、他地域から移住者を連れてくることにも限界があるため、できれば地域の漁業者のお子さんに後を継いでもらう流れを生み出し、彼らにも担い手センターを活用してもらい、地域に認められた漁業者を生み出せるような仕組みを構築できれば良いと考えている。

基本目標 2 【No.27～33 について】

(委員)

No. 32 について、女川原発再稼働に関する様々なニュースが出ている。原発事故が起きた際の避難対応にあたり風向きと風力の情報が有益であると考えている。気象データをオープンデータ化し季節ごとや月ごとに風向き等を把握できるようになることで、避難計画の検討にも使えると思うのでぜひオープンデータ化について検討していただきたい。

(ICT総合推進室)

気象データは様々なデータと組み合わせることで利用価値が高まるものであると認識している。現在、市には気象情報を収集する仕組みがないので、国が公表していると思われる気象に関するオープンデータと市のオープンデータと組み合わせ活用していきたい。

(委員)

No. 27 について、KPI 自体は観光客に目を向けた設定となっているが、牡鹿ホールランドや雄勝硯伝統産業会館等については、観光客のみならず、市内の子どもたちに向けた発信もした方が良いのではないかと思う。教育は3年先の種蒔きと言われており、子どもたちが地元を離れた後に帰って来たいと思ってもらうためにも、これらの施設を活用した教育をカリキュラムに取り込むべきではないかと考えている。

(観光課)

牡鹿については拠点施設の中心に環境省のビジターセンターを整備している。昨年度途中からオープンしており、ビジターセンターでは地域の子どもたちや大人を対象に、牡鹿半島に関連した様々な内容の教室や見学会を実施している。今後も環境省の職員やビジターセンターの管理者等に様々な取組を展開していただけると聞いている。牡鹿ホールランドについては、7月22日にオープンする予定となっている。オープンに向け、地元の子どもたちに内覧会を実施しており、オープン後も指定管理者が中心となって

様々な催しをしていただけると考えている。雄勝硯伝統産業会館は今年度オープンしたばかりであるが、硯や隣接している物産について売上も好調という話である。新しくできた拠点施設を含めて、観光だけでなく教育旅行や地元の教育の支援施設として活用していただけるよう総合支所や管理者等と連携していきたい。

(委員)

2022年度には全ての学校においてコミュニティスクールが努力義務とされるので、教育委員会と連携して各施設での学習をカリキュラムに取り入れ、イベントで終わらないようにしていただきたい。

(会長)

地元の子どもたちが地元のことを知らないのは非常に寂しいことなので、ぜひ教育委員会と連携していただきたい。

(委員)

復興の基本は人づくりである。地元を誇りを持つ子どもを育てるとするのは市内にある施設や環境について、「鎮守の森」のようにふるさとに帰るような心のきっかけを作るというのが志教育の基本である。常に人づくりの視点をもって取り組む必要がある。

(委員)

No. 27について、リボンアートフェスティバルの入込数の集計はどのように行っているのか、今年度の開催はどういう予定なのか。

(産業推進課)

44万人という入込数については、63か所の地点に入った人数の累計となっており、この人数はリボンアートフェスティバルの実行委員会で公表しているものである。通常、イベントについては各地点の人数の集計を出しており、この集計もそれにのっとった形になっている。なお、実来場者数は約29,000人である。

今年度の開催については、まだ決まっていない。本来であれば、夏にトランジットということで小規模なイベントを開催する予定としていたが、新型コロナウイルスの影響により秋口または年度末にできないか模索中である。

イ 基本目標における数値目標の達成状況について（資料6：SDGs地域戦略推進室長）

(委員)

基本目標3について、東京圏への転出、東京圏からの転入の数値が示されているが、これを東京圏ではなく市外とした場合の数値はどうなるか。

(事務局)

次回の会議の際に回答させていただく。

4 その他

特になし

5 閉会あいさつ

(副会長)

今回も活発な意見が出てとてもありがたい。今回の会議で発言のチャンスがなかった方におかれましては、それぞれの立場での意見を来週いただけるのを楽しみにしている。来週の会議もよろしくお願ひしたい。

石巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議名簿

(令和2年7月8日)

No.	氏名	所属	備考
1	安住 栄一	牡鹿地区住民代表	出席
2	阿部 紀代子	コンパクトシティいしのまき・街なか創生協議会	副会長 出席
3	荒木 裕美	NPO法人 ベビースマイル石巻	出席
4	伊藤 桂子	桃生地区住民代表	欠席
5	井深 修一	株式会社七十七銀行石巻支店（代理：齋藤様）	出席
6	葛西 すめほ	石巻市町内会連合会女性部会	出席
7	木村 美保子	NPO法人 いしのまきNPOセンター	出席
8	後藤 宗徳	一般社団法人石巻観光協会	会長 出席
9	西條 拓也	いしのまき農業協同組合	出席
10	佐々木 清勝	河北地区住民代表	出席
11	佐藤 秋子	いしのまき農業協同組合	出席
12	佐藤 清子	河南地区住民代表	出席
13	佐藤 尚美	北上地区住民代表	出席
14	須能 邦雄	石巻市水産振興協議会	出席
15	高橋 真由美	雄勝地区住民代表	出席
16	中川 尚仙	石巻商工会議所	出席
17	芳賀 信幸	石巻市地域包括ケア推進協議会	出席
18	畑山 實	連合宮城石巻地域協議会	出席
19	松本 祐佳	一般社団法人 石巻青年会議所	出席
20	横江 信一	石巻専修大学	出席

アドバイザー

	大岩 昇	総務部総務課 法制企画官	出席
--	------	--------------	----